

独眼竜が愛した庶民文化

ニッポンたからもの プロジェクトから探る

『ニッポンたからものプロジェクト』日本遺産X「Live!」多賀城公演が10月6日午後、宮城県多賀城市の多賀城史跡に設営された野外ステージで開催された。公演は、歌枕の地としての多賀城・塩竈の紹介、雅楽演奏、川前の鹿踊披露などが行われた。当日は季節外れの台風が接近中のため、曇り空の中にも時折夏のような日射しが降り注ぐ天候であったが、多くの来場者が公演を楽しんだ。

古の音色 雅楽

雅楽演奏では日本古来の楽器が多々登場する。

笙 演奏 真鍋尚之



雅楽が唐からの影響を

受けただけあって、雅楽の太鼓の飾りは朱が基調となっており、茶色が基調の和太鼓とは大変違いがあるように思える。

演者が身に着ける襲かさね装束 七ようぞくは唐の影響が色濃く、鮮やかな朱色が映え、雅楽を荘厳な雰囲気に変えている。逆に蛮絵（ばんえ）装束は一線を画し、日本風に落ち着いた色合いで、厳かな空気を醸し出している感じである。

私は以前中学校で雅楽を鑑賞したことがあったので、多少のイメージはもっていたが、改めて見るとさすが世界最古のオーケストラと言われるだけに、厳かでかつ迫力

ニッポンたからものプロジェクト：2020年東京大会をきっかけに 日本を再発見しよう！というテーマで、日本遺産で開催されるプロジェクト。

日本遺産：地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定したもの。

が伝わってくるように感じられ、楽器一つ一つの音色はとても神聖に聞こえた。

豊作をもたらし 川前の鹿踊

鹿踊（しおどり）は関東以北に多く見られる郷土芸能で、昭和48年11月6日に宮城県指定無形民俗文化財として登録された。仙台市の川前地区に伝わる鹿踊は、その昔、稲につく害虫が大量発生

したときに多数の鹿が現われて害虫を退治し豊作をもたらした伝説を由来として江戸期以降、鹿頭をかぶって豊作を願う踊りを毎年踊るようになったものである。



現在、鹿踊は川前地区の子どもたちが中心となっている。彼らは、幼少の頃には熱心に参加しているのだが、大人になってからも続けようとする者は極めて少ないようで、後継者不足が悩ましい状態である。



雄々しい表情の鹿

今回、様々な伝統芸能が披露された多賀城跡周辺は、歌枕の地として有名である。歌枕とは、和歌の題材とされた景勝地や史跡のことを指す言葉である。

歌枕の地 多賀城



末の松山 末松山宝国寺）
有名である。 ざんなに激しい波もこの松を越えることができないように、二人の恋に心変わりなどあり得ない」と詠ま

末の松山」は多賀城駅からほど近い末松山宝国寺に現存する二本の松で、百人一首の清原元輔の歌に詠まれていること

壺の碑」は高さ196センチ幅92センチメートルの大きな石碑で、西暦762年に多賀城政庁の前に建立されたものとされている。

12世紀末に編纂された「袖中抄」に壺の碑が紹介されたことから、多くの歌に詠まれるようになった。江戸時代、学術文化を重んじた仙台藩が、歴史的な名所旧跡を手厚

く保護したことで、壺の碑は歌枕のひとつとして現存し続け、松尾芭蕉など多くの歌人を魅了してきた。現在では、壺の碑は木造の建物に覆われて厳重に守られている。

編集後記

地元の多賀城市でのイベントということで宮城野高校新聞サークルに声が掛かり、ニッポンたからものプロジェクトの公演に出席させてもらいました。

今回の新聞は、学校内のいろいろな活動を取材して書く書き方とは違い、初めてお会いする方に取材して記事を書くというスタイルだったため、なかなか順調には進みませんでした。また、雅楽や鹿